

定化と、生物学的に重要性の高い水域を保護する事業を推進した。

同様に、EPAは、将来のための「不特定汚染宣言」(Nonpoint Source Agenda)を策定した。この宣言の目標は、当時の計画を強化し、不特定汚染問題に対して実践的な解決策を推進することであった。特に、従来からの法規制に付する代替案として、啓蒙と財政的支援が実施された。

飲料水：仮に、微生物や化学的汚濁物が発見されることなく公共用水域に入れば、数千人の人々が病気になる可能性がある。ちょっとした誤りが重大な結果を招く可能性があるために、全てのアメリカ人が常に安全な飲料水を得られるようEPAは大きな努力を払っている。

この目的を達成するために、EPAは公共用水道が厳しい安全基準を達成することを求めている。こうした努力にもかかわらず、一部の地域において水が飲料水に適さないという問題が発生してきた。例えば、1993年にミルウォーキーにおいて、水中で繁殖するクリプトスポリジウムと呼ばれる寄生虫が、40万人の病人と100人の死者をもたらしたと考えられている。

我々の水道は一般に安全であると考えられているが、EPAは飲料水に対する脅威を知らせる責任をもっている。この責任の一環として、EPAは今後も新たな基準を策定

し、健康に対する危険性の防止を最優先する考えである。

## 流域環境保護

これらの挑戦を進展させるために、EPAは、流域や自治体全体を対象にした環境保護を特に重視している。単一の汚染源や汚染問題に焦点を当てるのではなく、流域全体としての取り組みが必要である。その結果、考慮すべきいくつかの条件、ストレス、問題を取り入れた総合的、全体的視点がうまれるものである。このような取り組みが十分発展し導入できるならば、工場排水及び集落排水と同じように、水道水源及び湿地、大気中からの有毒化学物質の堆積、及び農地からの汚染物質の流失を保護・防止することができるであろう。

流域全体としての取り組みのもう一つの目的は、流域管理に責任のある政府機関及びNGOの間のより良い協力関係の構築、及び流域の環境条件に利害関係を持つ多数の関係者の参画である。直面している問題が、事業の優先順位、事業の実施時期、危険な状態にある湿地の復元等どのようなことであっても、多数の関係者が一体となって、流域や自治体全体としての利益のために彼らの資源、時間、努力を傾注するならば、多くの問題解決が可能である。

## 〈編集部だより〉

○自動販売機なるものが街中の至るところにある。人を介せず欲しいものを手に入れることができる極めて便利なキカイである。時間を問わず深夜でも早朝でもいつでも相手をしてくれる。なかにはアリガトウゴザイマスなどと余計な言葉を発するものもある。

それにしても彼がオツリを出すとき何故出し渋る風情をするのだろうか。いかにもオツリを出すのが本意ではないように少し間をおいて対応するのが憎らしい。ものによってはレバーを廻さないとそのまま着服しようとするヤツもいる。

オツリを先に出せとは言わないが間髪を入れず素直に返して欲しいものである。(T. K.)

○当センターに4月から勤務することになり、引き継いだ「魚がのぼりやすい川づくり」に対して、現地の構造物がどうなっているのかを見てきました。川の中を

泳いでいるアユやコイ・フナ類を見ている上ではそうも感じなかったのですが、高さ1m程のスロープの堰に、3cm程度のカジカが水流に必死に耐え、なんとかして上流側に行こうとして、もがき苦しんでいる状況を目の当たりにし、人間に置き換えてみると、20m以上の高さのある、流水滑り台を手すり無しで昇れといわれているのと同じで、「幅のある階段があれば(彼らにとっては魚道が)上れるのに」と感じ、これはなんとかしてあげなくてはと思った次第であります。

この機関誌の編集も、前26号より編集事務局を担当させていただいております。26号は前任者の引き継ぎということで、敷かれたレールの上を転がしてくる状況でありましたが、本号からは自分でレールの基を敷いていくこととなりました。皆様の協力の程をよろしくお願い申し上げます。(K. N)